

令和4年6月16日

16:00~17:30

令和4年度 第1回 大阪府立豊中高等学校 学校運営協議会 議事録

日時：令和4年6月16日 16:00~17:30

出席者（敬称略） 協議会委員 山崎 彰、須賀 寅充、宮坂 政宏
岡部 美香、浅田 勝利、後藤 淳
校長 中原 光子
事務局 藤縄 真敬、土佐 泰豊、宮野 淳一
志方 洋介、城台 祐樹

次 第

1 校長挨拶 中原校長

コロナ落ち着いてきて日常が戻りつつある。今年度から観点別評価が始まり、たいへんだがひとつひとつ進めていく。

2 会長挨拶 山崎会長

歴史ある豊中高校。地域の期待を受けて設立運営されてきた。1970年頃に進学率が一気に上がった。歴史のある学校はもともとそれぞれの特色を持っていたが、1970年代は画一的な教育が求められた。しかし、少子化の流れや個性の問題から、それぞれの学校が特色を持つ流れに戻ってきた。それが今回のスクールミッションやポリシーに表れている。子どもたちの多様な生き方や自己実現を支える時代。テストの学力だけから脱皮して、豊高ならではの特色を求めていく必要がある。さまざまな課題があるが、豊高らしさを打ち出せるようにしていきたい。

3 協議・報告 協議委員・事務局

(1) 卒業生の進路状況について

（本校進路部長より報告）

- ・コロナの影響で、地方に出て一人暮らしをしようという生徒が減っている
- ・関大・関学を中心に、合格者がそのまま進学する数が増えている（特に理系）
- ・国公立の学校推薦型選抜進学者が増えている（大阪6 大阪公立5 大阪教育）
- ・浪人生が減少している
- ・毎年浪人生の60%前後が国公立に合格・進学している
- ・模試の結果と進学実績の相関が強い

(委員) 入学してきている生徒の力は？

(進路部長) 4月の模試によると入ってきた生徒のレベルに変化はない

(委員) 私立高校志向が強くなってきているので、学力の足りない生徒が受験するケースが増えている。

英検を複数回受験すれば受かってしまう状態。実際に英語力がついていない印象。

(委員) 文系・理系の比率が1:1になった時期(71期、72期)があるのはなぜ？

(進路部長) 正直、わからない。

(事務局) 71期は10クラスあったのが影響しているのでは。

(委員) 安定志向になり、堅実な生徒が増えている。私立を選んで浪人が減っている状況が進んでいる？

(進路部長) 理系の私立現役志向が増えている。

(委員) 女子の理系の就職情報が少ない印象。

(会長) 親として、女子には特に資格を持たせたいと考える人が多い。そこには男女差がある気がする。

(委員) 文系・理系とあるが、これから文理融合の考え方、学際的な考え方に力を入れていくことが必要だと思う。

(委員) 文理融合はシステムづくりが難しいが、可能性を広げることは大切。

(会長) 勉強させることも大切だが、将来28歳時のことを徹底的に考えさせたある学校の取り組みで、劇的に生徒が変わったという例も。生徒が自発的に考えさせる機会を。

(2) 令和4年度 学校経営計画について 及び

(3) スクールミッション・スクールポリシーについて

(校長)

- ・「生徒たちにどれだけ自律的な学習をさせることができるか」が大阪府全体の課題。生徒の学力を伸ばしていくのが使命だが、中学生としての学習姿勢から、高校生としての学習姿勢に変えるのが大切。
- ・観点別評価の評価法に四苦八苦するのではなく、どうすれば生徒にとってよいのかを考えていく、取り組んでいくことが大切であり、それが最大の課題。
- ・教員が忙しい。働き方改革をうまく進めていかななくてはならない。続けるべきことは続け、やめるものはやめる。
- ・コロナは落ち着いてきたが、もとに戻るわけではないので、今後の取り組み方を考える必要がある。以上のことをスクールミッションやポリシーに繋げていきたい。

6月になりスクールミッションの通知が大阪府からおりてきた。将来社会に出る生徒たちにどのような力をつけるべきかを具体的に考えていく(グラジュエーション・ポリシー)。それを実現するためにどのような教育課程を編成するか(カリキュラム・ポリシー)。そのためにどのような生徒の入学を求めるか(アドミッション・ポリシー)。この3つのスクール・ポリシーを策定・公表する必要がある

(委員) めざす学校像と、3つの方針(スクール・ポリシー)について、今までしてきたことをマネジメントサイクルにおとしこみ、カリキュラムマネジメントをしながら作り込んでいけば大丈夫かと思う。

スクールミッションがすでに学校を離れている。学校だけではなく、文科省や大阪府、地元自治体も含めて再定義していく必要がある。地元自治体に関してはこちらから働きかけなければなかなか難しい。

(委員) あるべき姿はそのとおり。ただ、現実では学校の統廃合が進んでいる。公立より私立高校を選ぶ人が増えている。私立は特色を強く打ち出しているのも、そちらに惹かれる生徒・保護者が増加。意識するべきは「地域」。コロナで地域志向が強まっているのをプラスに捉えてはどうか。豊中高校は、ひとつ「GLHS」という特色があるので、今までしてきたことに磨きをかければよいと思う。

(会長) たとえばアドミッションポリシーについては、私学でも悩ましいところ。理念と実態がなかなか合わないところもある。入試で反映させることが大切。

(委員) 学校の方針を打ち出すことも、意思表示として大切だし、意味があると思う。

(委員) 一般的な力も大事だが、具体的で他のところにはないような特色を持った、豊中高校生ならではの力をつけてあげれば、大学の立場からしてもありがたい。

(事務局) ステークホルダー、関係者と連携しながら、というのが見えにくいので、アドバイスを伺いたい。地域からは豊中高校はどう思われているか。

(委員) 選ばれし者が行く高校。行きたいけど行けない高校という印象。ただ、私立は卒業生の将来をしっかりとアピールしてくるので、そういったことも大切になってくるのでは。

(委員) 地域に人気のブランド力があるが、それだけでなく将来どうなるかをしっかりとアピールすることも大切だと思う。

(委員) 豊高生には、型にはまらない人材になってほしい。そういう人間になるための後押しをしてくれる学校になってほしいし、豊高にはそういうイメージがある。小中高大連携が大切。

(委員) ミッションの再定義では、学校の存在意義を考えることが大切。豊高の存在意義のひとつはGLHSではないか。その存在意義を踏まえた上で、未来に向けてのミッションを考えていければと思う。今の子どもは、勉強についてどれだけ熱心に、自律的に、活力をもって取り組んでいるのかと思う。そういう子は少なくなっているのでは。没頭して学ぶことが大切だと思うので、そこを踏まえてミッションを考えていただければ。

(委員) 多様な生き方、将来の自分の姿を想像できるキャリア教育が大切。

(4) その他

(事務局) 使用教科書については第2回委員会にて報告予定